

蜂の誘引捕殺器の 効果と問題点 (919)

酒田署・担当区事務所 佐藤 吉則

はじめに

昨今の、労働災害の減少化傾向の中で蜂刺されによる災害は依然後を絶たず、局
署及び現場を挙げて蜂災害の防止に努力が払われている状況です。

蜂刺され防止は、予防対策として保護具の着用、事前見回りの励行、誘引捕殺、
事後対策として、救急薬品等によりすばやく適切な手当が行われています。

平成元年度、私の勤務する中野俣担当区でも蜂の誘引捕殺器を設置して、蜂災害
の絶滅に努めたので、その効果と改善について報告します。

1. 実施方法

(1) 容器 ジュースなどのポリ容器1.5リットル入りを利用して製作し、容器の胴
上部に(5×3)cmの穴をあけ、穴の
上側を切り取らずに上方に折曲げて雨
よけとした。(図-1)

(2) 溶液 清酒1.8リットル、食酢250cc
砂糖500gを混合したものを使用した。
溶液の量は1容器に300cc程度とし
3本の容器で実施した。また溶液は
蒸発により減少するので20日おきに補
充し、使用量は1本につき600ccとな
った。

(3) 設置方法と設置場所 溶液を入れたピンの首部に紐をつけて棒に吊下げ、
ピンの穴が地上約70cm程度の高さとなるよう設置した。70cmというのは、当
作業地が地拵新植の箇所であり、作業に支障とならない高さだと判断したこと
による。

設置場所は、2.53haの作業地の中央部に2ヶ所と歩道の入口付近に1ヶ所の
3ヶ所とした。(図-2)

図-1 設置方法

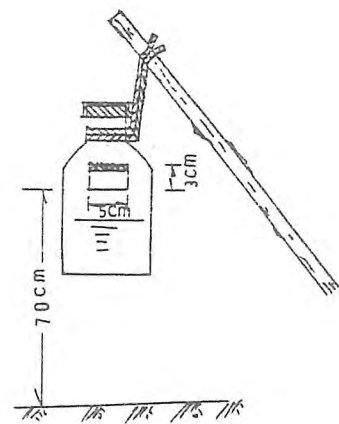
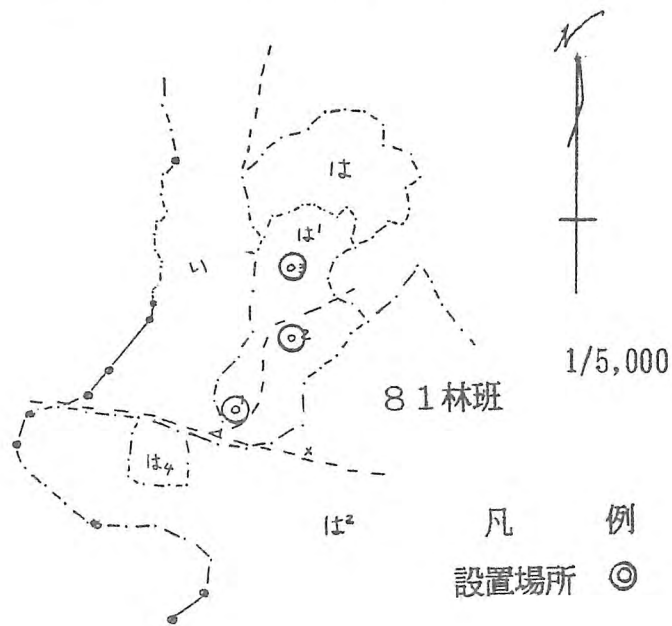


図-2 設置場所の概要



(4) 設置の時期

設置時期は蜂刺されの多発する8月9日から9月29日の52日間とした。

2. 実施結果

(1) 設置期間中は5日に一度をめぐりに12回巡視した。

捕殺結果は、スズメバチ217匹、クロスズメバチ60匹で、1日当たりの捕殺数は、前者につき4.2匹、後者については1.2匹となり、1haあたりにすれば前者については85.7匹、後者については23.7匹という結果になった。(表-1)

表-1 誘引捕殺結果の概要

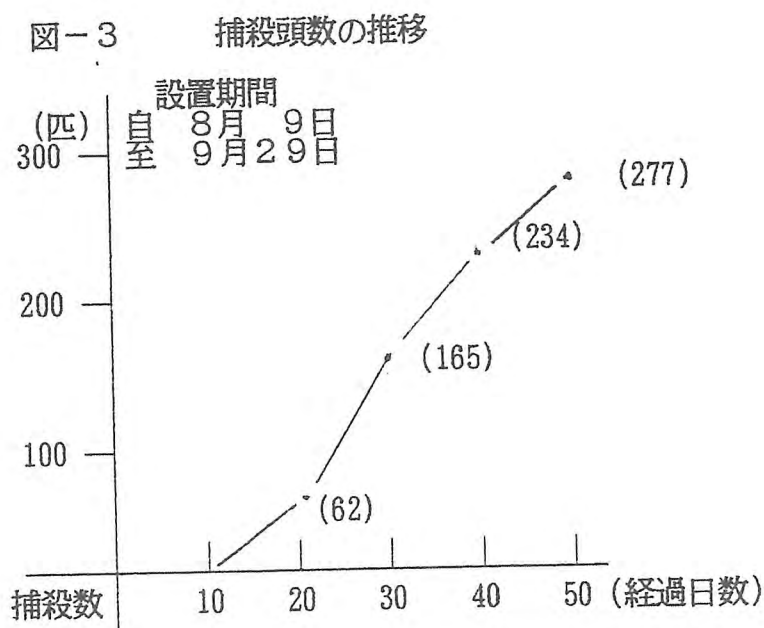
| 実施箇所 | 面積 | 植栽年度 | 実施期間 | 天候 | 蜂の種類 | 駆除数 | | |
|---------------|---------|----------|----------------------------|----------------------|---------|------|------|-------|
| | | | | | | 総数 | 日当り | ha当り |
| 81林班 は' 小班 | 2.53 ha | 平成 元年 | 8月9日 ~ 9月29日 52日間 | 晴31日 曇11日 雨10日 | スズメバチ | 217匹 | 4.2匹 | 85.7匹 |
| | | | | | クロスズメバチ | 60 | 1.2 | 23.7 |

(2) 52日間の天候は、晴れ31日、曇り10日、雨10日と観察した。

(3) 捕殺数の推移を見るに、最初の10間には1匹も捕殺できなかった。

これは溶液自体が腐敗（醜酵）して臭気を放たないと蜂も誘引されないように思われる。その以後は1日平均7匹程度を捕獲している。

以上のことから考えられることは、現地に設置して10日ぐらいしてから実際の作業に入ることが良いかと思われます。（図-3）



3. 実施成果

地拵及び新植の作業期間において、スズメバチとクロスズメバチ合わせて277匹を捕殺することができました。また作業現場で注意しあっていたこともあって、スズメバチ類による災害は1件もなく、良好な成果が得られたものと考えます。

4. 問題点

実施結果を見るに、スズメバチとクロスズメバチは数多く捕殺できましたが、アシナガバチを1匹も捕殺できない点が注目されます。

現に、誘引捕殺器の設置期間中にもアシナガバチによる蜂刺されが3件発生しており、アシナガバチ類の駆除効果には疑問の残るところでした。

このため、9月1日から9月29日までの期間、この誘引捕殺方法のアシナガバチに対する効果を見極めるために次のような実験を行いました。

5. 別途実験

- (1) 81林班は¹小班に設置した誘引捕殺器と同様のものを1個作成し、81林班は²小班内に発見されたアシナガバチの巣から5mほど離れたところに設置した。
- (2) 実験結果は、アシナガバチの巣が捕殺器に極めて接近していたにもかかわらず81林班は¹小班同様、スズメバチ類の捕殺が見られただけで、アシナガバチの捕殺頭数はゼロであった。

まとめ

一担当区のみにおける実施結果ですから、様々な地域の特殊性もあって、直ちに結論を一般化することには無理があるかとは思われますが、当担当区では平成元年度、スズメバチ類による蜂刺されが1件も発生しなかったことにも見られるように、今回用いた誘引捕殺方法は、スズメバチ類の駆除には極めて有効であることが確かめられました。

他方、アシナガバチについては1匹も捕殺できず、作業現地環境にも関係があるのかもしれませんが、今回使用した溶液、容器の形状あるいは設置方法ではアシナガバチの駆除は困難なものと思われます。現に夏山期間中、当担当区においてもアシナガバチによる蜂刺されが12件あり、蜂災害の完全防止の観点からは疑問の残る結果となりました。

今後、溶液・容器の形状あるいは設置場所について創意工夫、改良を進め、アシナガバチ類とスズメバチ類の双方に効果のある誘引捕殺方法の開発が必要と考えます。ところで、考えられることですがアシナガバチは果汁などの液に集まる習性があるので、その習性を利用した捕殺も考えられ、今後の課題として取り組みたいと思います。

また、他に同様の誘引捕殺方法を試してみた現場があれば、それらとの比較を行うことも重要かと思われます。

今後更にこの問題に取り組みながら、蜂災害を絶滅したいと考えておりますので、皆様のご助言・ご指導をお願い致します。